

これは1～4月まではイカ曳による漁獲主体であるが、5月以降12月までは、追込網漁法による漁獲が増加するためである。

## 要 約

本報告は、昭和47年4月から、アオリイカの産卵生態、分布生態、環境、漁業生産を究明するため、聞き取り調査、市場調査、購入標本による調査、委託調査による漁場分布調査を行ない、次の事がわかった。

### (1) 幼魚の分布

分布海域は、図-3に示すように、勝連半島西側海域、津堅島周辺海域および知念南側海域に特に多く分布する。

### (2) 産卵生態

熟度指数、卵径頻度分布、纏卵腺長と体長との関係等から判断すると、産卵期は3～10月産卵は数回に分けて行なわれ、産卵に加わる個体の体長は2.5 cmで、サンゴ礁の裏面、藻類ススキの根等に産卵附着する。

### (3) 漁業生産

那覇地区漁協における漁獲量は年19～33トン、糸満漁協では1.2～1.9トン、勝連では6.7～7.0トンである。月別漁獲量では、那覇地区、糸満とも1～4月まで増加傾向、5～7月に減少傾向、8～12月にかけて再び増加傾向を示す。勝連は他の2地区と逆で1～4月に減少傾向、4～9月に増加傾向を示す。

## 参 考 文 献

- (1) 新日本動物図鑑 中巻 1965
- (2) アオリイカの養殖試験 1965 伊野波盛仁 くろしお
- (3) アオリイカの養殖試験 1967 瀬底正武 琉水研報
- (4) 北部海域におけるスルメイカの分布と移動回遊について  
1971 加賀吉栄 漁業資源研究会議報

